

【総説】

看護学生における職業的アイデンティティの文献レビュー

高瀬園子*¹ 佐藤美佳*¹ 西沢義子*²

(2018年2月28日受付, 2018年4月28日受理)

要旨: 看護学生の職業的アイデンティティに関する研究の内容を明らかにし、今後の教育的支援と研究の課題の示唆を得るために、医学中央雑誌とCiNiiを使用し文献レビューを行った。45件の論文が抽出され、内容を分類した結果、看護学生の職業的アイデンティティ得点は1年生が高く学年進行とともに低下し、卒業時に再び上昇する傾向があった。また、社会貢献などの志向性は高いが、看護職になることの自信が低い傾向にあった。心理的要因や志望動機などの生活歴といった個人特性からの影響も関連していた。教育的支援としては、振り返りや相談、学習意欲を高めるための教育の必要性があり、今後は、職業的アイデンティティと学習意欲との関連を明らかにする必要性が示唆された。

キーワード: 職業的アイデンティティ, 看護学生, 文献レビュー

I. はじめに

青年期でもある大学生は、アイデンティティが形成されていく過程にある。Erikson¹⁾は、職業的アイデンティティを決められないことが、何よりも若い人々を混乱させると述べており、職業的アイデンティティの確立は、青年期における重要な発達課題である。看護基礎教育は、将来、看護職に従事することを踏まえた専門職教育であり、看護学生は、学業生活を通して、自身の職業的アイデンティティを形成していくことになる。

文部科学省「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会」²⁾では、大学における看護実践能力の養成における課題の1つとして「国家資格を得るに足る職業アイデンティティの醸成」と示している。しかし、看護学生のなかには看護系大学に進学したにも関わらず、看護に興味関心が持てない学生もいる。その形成プロセスに困難が生じることは、看護職として就職することへの不適応を感じることになり、自信や意欲を失うことに繋がると考えられる。そのため、看護基礎教育では、看護学生の職業的アイデンティティ形成プロセスに注目した教育支援が望まれ、看護学生の職業的アイデンティティの現状を把握する必要がある。

看護学生の職業的アイデンティティに関する文献検討^{3,4)}は、いずれも対象論文は2011年までであった。2009年には、カリキュラム改正により臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合させることを目的とした統合分野が新設された。2011年には文部科学省より「学士課程においてコ

アとなる看護実践能力と卒業時到達目標」が示された。看護基礎教育の動向は、看護学生の職業的アイデンティティにも影響を与えることから、2011年以降の看護学生の現状も含めた文献検討の必要性がある。

II. 研究目的

看護学生の職業的アイデンティティに関する文献を概観することで、看護学生の職業的アイデンティティの研究の内容を明らかにし、教育的支援と今後の研究課題の示唆を得ることを目的とする。

III. 用語の定義

職業的アイデンティティ: 本研究では、グレッグ⁵⁾の職業的アイデンティティの定義を参考とし、看護学生における看護職との自己一体意識と定義する。

IV. 研究方法

1. 対象論文

医学中央雑誌 Web 版及び CiNii を用いて国内の文献を検索した。キーワードは、「看護」「学生」「職業」「アイデンティティ or 自我同一性」とし、原著論文に限定した。対象論文は、1990 年以降、少子高齢化社会の到来や医療の高度化に伴い、質の高い看護職の人材が求められ、看護系大学が増加した 1990 年から 2016 年までとした。結果、289 件の論文が抽出された。そこから医学中央雑誌と CiNii で重複した文献を削除し抽出した 137 件の論文について、題名、抄録または全文を確認し、研究対象者に看護学生以外が含まれている文献、研究の焦点が職業的アイデンティティについて述べていない文献、一次データを含まない文献を削除した。最終的に 45 件の論文を抽出した (図 1)。検索は

*1 弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程
Doctoral Program, Hirosaki University Graduate School of Health Sciences
〒036-8560 青森県弘前市本町 66-1 TEL:0172-33-5111 11-1, Honcho,
Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan
*2 弘前大学大学院保健学研究科
Hirosaki University Graduate School of Health Sciences
〒036-8560 青森県弘前市本町 66-1 TEL:0172-33-5111 11-1, Honcho,
Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan

Correspondence Author h16gg603@hirosaki-u.ac.jp

2017年4月に行った。

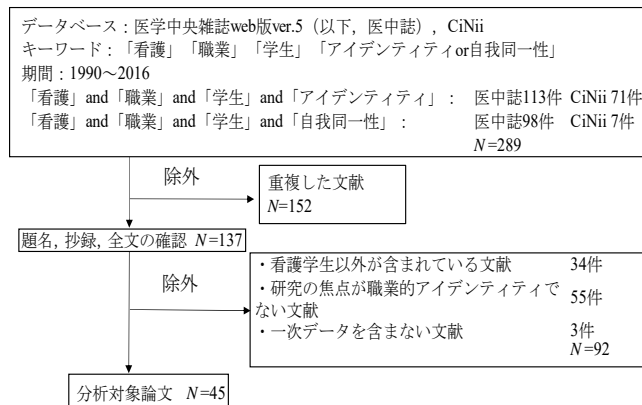


図1 文献検索の過程

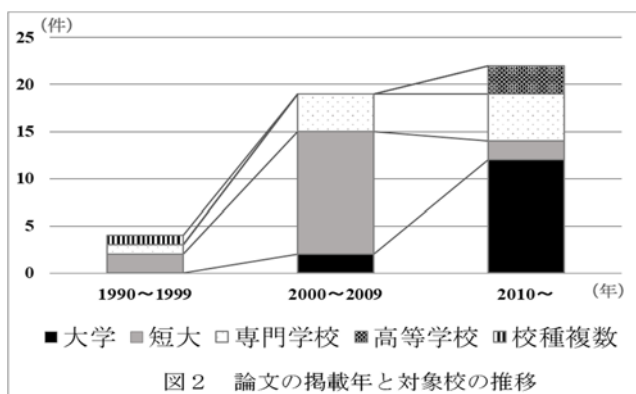
2. 分析方法

年代、対象者、研究方法 (①対象、②方法、③質問項目、使用尺度)、結果と課題 (①研究方法、②教育) に分類し、看護学生の職業的アイデンティティの現状及び要因を明らかにした論文と、職業的アイデンティティの教育的支援に関する論文に分類し、それぞれ表1と表2に示した。

V. 結果

1. 文献の掲載年次と対象数の推移

対象論文の推移は、1990年代は4件のみであったが、2000年から2009年までに19件、2010年以降は22件と増加した。短期大学生を対象とした文献が17件と最も多かったが、短期大学の減少と共に2010年以降は2件のみと減少していた。一方、大学生を対象とした論文は、1990年代は0件であったが、大学の増加に伴い2010年以降では12件と増加していた。(図2)。



2. 研究方法

研究方法は量的研究が多く42件であり、尺度を用いた検証であった。質的研究は3件で、非構成的面接法2件、レポート分析1件であった。

3. 看護学生の職業的アイデンティティの現状 (表1)

看護学生の職業的アイデンティティについて、最も使用されていた尺度は藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」⁶⁾の19件であった。この尺度は、過去から将来にわたる連続性の感覚である「医療職の選択と成長の自信」「社会への貢献の志向」、いかなる自己も自分自身であるという斉一性の感覚である「医療現場で必要とされることへの自負」「医療職観の確立」の4つの下位尺度が示されている⁶⁾。複数の論文¹⁵⁻²¹⁾で校種や学年による差はなく、下位尺度得点が最も高いのは、将来へ向かって、医療職として患者の願いに答え、医療現場や社会に貢献していきたいという志向性を表している「社会への貢献の志向」⁶⁾であり、一方、最も低い下位尺度は、医療職としての自分が患者や医療現場に必要とされていることへの自負心を表している「医療現場で必要とされることへの自負」⁶⁾であった。次に多く使用されていた尺度は波多野「職業的アイデンティティ尺度」¹⁴⁾の12件であった。下位項目「もっと看護の技術を磨きたい」の得点が最も高く、「看護師として仕事をするに自信がある」が低く、学年や校種による差異はなかった。藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」、波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した学年間の看護学生の職業的アイデンティティに関する文献では、職業的アイデンティティ得点は1年生が最も高く、学年進行と共に低下し^{7,8,15,16,22,23,25)}、最終学年で再び上昇した^{7,23,25)}。

松下「職業的同一性尺度」²⁶⁾では、7件の文献で使用されていた。この尺度では、一定の職業への傾倒をほとんど持っていない「同一性拡散」、自分の職業に深く傾倒している「同一性達成」、早くから特定の職業に深く傾倒していた「同一性早期完了」、「資格志向」²⁶⁾の4つの下位尺度が示されている。1年生では「同一性達成」は高く²⁷⁾、「同一性拡散」は高学年で高かった²⁶⁾。校種の違いでは、大学生は「同一性達成」、「資格志向」が低く、専門学校生は「同一性早期完了」が高いことが示されていた²⁶⁾。

次に、非構成面接法による調査では、看護の現実を知ること、不安や不適応感を持つことが報告されていた³¹⁾。また、職業的アイデンティティの形成過程を明らかにしたインタビュー調査では、【看護職は自分の仕事という感覚を得ていく】【看護職は自分の仕事か否かの葛藤をし続ける】【看護職は自分の仕事か否かの葛藤を止める】の3つの類型が抽出されたことが報告されていた³²⁾。

4. 職業的アイデンティティの関連要因 (表1)

1) 心理的要因との関連

看護学生の職業的アイデンティティと心理的要因の関連を明らかにした文献では、藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、特性的自己効力感^{8,12,25,33)}、自尊感情³³⁾では、正の相関関係があった。

表1 看護学生の職業的アイデンティティの特徴と関連要因に関する文献

【著者】	【目的】	【研究方法】①対象②方法③質問項目	【結果】	【課題】①研究方法②教育
使用尺度: 藤井「医療系学生用職業的アイデンティティ尺度」				
1 高橋 ゆかり 他(2008)	職業的アイデンティティと援助規範意識の関連を明らかにする	①短大の1、3年生(150名) ②自記式質問紙調査法③箱井「援助規範意識尺度」	1年生は援助規範意識の「自己犠牲規範意識」が職業的アイデンティティを確立。3年生は職業的アイデンティティ確立が援助規範意識を弱める。	①縦断的調査
2 柴田 和恵他 (2008)	職業的アイデンティティと援助規範意識の関連を明らかにする	①短大1、3年生(150名) ②自記式質問紙調査法③箱井「援助規範意識尺度」	職業的アイデンティティ下位因子得点は全て1年生が3年生より高く、有意差が認められた。	
3 島田 久代 (2011)	職業的アイデンティティと援助規範意識の関連を明らかにする	①大学1年生(80名) ②自記式質問紙調査法③箱井「援助規範意識尺度」	「社会貢献」が高く「必要とされることへの自負」が低く、看護大学第一希望学生と違う学生で「看護職選択したことへの自信」に有意差があり。	①「援助規範意識尺度」は、信頼性、妥当性についての検討が必要。
4 関口 恵子 (2012)	アイデンティティ形成の実態を職業的アイデンティティ及び学年間の差を検討	①短大生1~3年生(297名) ②自記式質問紙調査法③谷「多次元自我同一性尺度」、職業体験の有無、アルバイトの経験の有無	全学年で「社会貢献」が高く、「必要とされることへの自負」が低い。全下位尺度で1年生が最も高く2年生が最も低い。職業的アイデンティティ下位尺度とアイデンティティ下位尺度には、正の相関あり。	②アイデンティティを高めるための指導方法の検討。
5 千葉 朝子 (2013)	看護師志望意志の経年的変化と影響因子、職業的アイデンティティとの関連を明らかにする	①専門学校5校3年生(318名) ②自記式質問紙調査法③学歴、看護師になりたい気持ちの変化、断念しようと思ったかの有無、どのように乗り切ったか	在学中看護師になることを断念しようと思ったことのある学生は、断念しようと思ったことのない学生に比べ、職業的アイデンティティの下位尺度得点が有意に低かった。	①影響要因。縦断的調査。②実習での達成感や自己肯定感が持てるような関わり。
6 生田 奈美可 他(2013)	入学後間もない時期の大学生の職業アイデンティティの構造と、自己効力感や自尊心との関連を検討する	①大学1年生(94名) ②自記式質問紙調査法③成田「特性的自己効力感尺度」、内田「自尊感情尺度」、職業モデルの存在の有無、現在の健康状態	モデル有、身体的・精神的健康状態高群では職業的アイデンティティが高い。職業的アイデンティティ、自己効力感、自尊感情は正の相関があった。「看護職観」と自己効力感、「看護職観」「必要とされる看護師としての自己」と自尊感情は正の相関があった。	①縦断的調査。質的調査。②自己効力感や自尊心を維持していく教育。
7 Matsuura Emi他(2014)	職業的アイデンティティに関連する個人および環境因子の特徴を明らかにする。	①大学3校1年生(174名) ②自記式質問紙調査法③成田「特性的自己効力感尺度」、モデルの有無、家族の介護経験の有無、医療分野で働く身近の人を以前から知っていたか、看護師を目指した理由	「社会貢献の志向」が高く「看護職観」「医療職として必要とされることへの自負」が低い。職業的アイデンティティと自己効力感は正の相関。要因はモデル有、介護経験有で職業的アイデンティティが高く、志望動機「やりがいある仕事」は正の関連、「特別な理由はない」は負の関連。	①職業的アイデンティティがどのように形成されるのか卒業後まで継続的調査。
8 清水 美恵他 (2015)	志望動機が実習達成感を媒介し職業的アイデンティティに影響を及ぼす仮説モデルを検討	①大学3校、4年生(245名) ②自記式質問紙調査法③草野「実習達成感尺度」、竹本「志望動機尺度」	「志望動機」と「実習達成感」、「実習達成感」と「看護職の職業的アイデンティティ」で有意な正の関係があり、志望動機が実習達成感を媒介し職業的アイデンティティに影響を及ぼす。	①要因検討。縦断的調査。②志望動機を大切に学習意欲を高める。
9 高畑 正子他 (2015)	特性的自己効力感が職業的アイデンティティに与える影響	①大学1~4年生(320名) ②自記式質問紙調査法③成田「特性的自己効力感尺度」	1年生が最も高く、次いで4年生が高く、2・3年生は低かった。職業的アイデンティティと特性的自己効力感の間には相関がみられた。	①要因を探る。②自己効力感を高める教育。
10 小坂 美映子 他(2015)	行動規範と職業的アイデンティティの関連について明らかにする	①専門学校3年生(95名) ②自記式質問紙調査法③西山「行動規範の自己評価表」	「社会貢献の志向」が高く「医療職として必要とされることへの自負」が低い。行動規範「実習態度の向上」と「医療職観の確立」と行動規範「医療者としての人格形成」に相関あり。	②入学時より医療者としての態度指導が必要。実習で学生が自身の経験を振り返る指導の必要性。
11 藤本 裕二他 (2016)	職業的アイデンティティと特性的自己効力感、職業モデルとの関連を明らかにする	①大学4校、1年生(233名)、2年生(211名) ②自記式質問紙調査法③成田「特性的自己効力感尺度」、職業モデルの有無	1年生とモデル有群が有意に高く「社会貢献の志向」が高く「医療職観の確立」「医療職としての必要とされることへの自負」が低い。職業的アイデンティティは特性的自己効力感と正の相関。	①大学4年間の経年的変化。②職職業モデルや自己効力感を意識した教育の必要性。
使用尺度: 波多野「職業的アイデンティティ尺度」				
12 河村 彰美他 (2000)	看護師志望理由や志望の強さ、学習進捗度が看護婦のアイデンティティ形成に及ぼす影響	①短大1~3年生女子(252名) ②自記式質問紙調査法③石川「看護師を志望した理由」、親族の看護職の有無、高校在学時の一泊看護師体験の有無、進学決定時期、入学時の看護師志望強度	「もっと看護の技術を磨きたい」が最も高く「看護師として仕事することに自信がある」が最も低かった。志望理由は、志望理由の下位因子「職業的魅力」と職業的アイデンティティの下位因子「自己実現」には高い相関があった。	①縦断的調査による1つの学年を追跡調査。
13 野田 貴代他 (2005)	入学後間もない短期大学生の職業的アイデンティティを把握し、その要因を明らかにする	①短大1年生(91名) ②自記式質問紙調査法③看護師の志望動機、職業観、学習、学生生活興味度、今までの看護に関する経験	「もっと看護の技術を磨きたい」が高く「看護師として仕事することに自信がある」が低い。正の影響は「学生生活興味」「学習興味」「看護師に対する理想的な想い」「身内の入院」。	①要因を明らかにする。②迷いを感じた際には学生の考えを聞き、看護の魅力伝える指導体制。
14 小藪 智子 (2007)	職業的アイデンティティの経年的変化を明らかにする	①短大2003、2004年入学生(133名) ②自記式質問紙調査法(1年次、2年次、卒業直前で実施)	1年生が有意に高く、「もっと看護の技術を磨きたい」が最も高く、「仕事することに自信がある」が最も低い。	②各時期の指導、努力を承認、アイデンティティ揺らぎの際は個別支援。
15 上山 和子 (2009)	アイデンティティと看護職のアイデンティティとの関係性を明らかにする	①18・19年度の短大生3年生女子(101名) ②自記式質問紙調査法(各学年の実習前後) ③下山「アイデンティティ尺度」	「もっと看護技術を磨きたい」は高く、「看護師として仕事することに自信がある」は低く、看護職アイデンティティとアイデンティティは、正の相関あり。	②学問の大切さ、自己理解や自己の傾向についてフィードバックさせる。
16 合田 友美他 (2011)	自尊心と職業的アイデンティティの測定、両者の関連と経年的な変化を明らかにする	①短大(80名) ②自記式質問紙調査法(入学時、卒業時) ③山本「自尊感情尺度」	「もっと技術を磨きたい」が高く、「看護師をすることに自信がある」が低く、経年的に低下。入学時の自尊心と職業的アイデンティティは弱い正の相関。卒業時はやや強い正の相関があり。	①対象者を増やす。②卒業時の自己評価の必要性。学生が自分の価値を感じられるよう配慮。
17 上山 和子 (2012)	看護職アイデンティティと青年期のアイデンティティ確立との関係性を明らかにする	①大学の2年生(55名) ②自記式質問紙調査法③下山「アイデンティティ尺度」、進路決定事項、職業的継続意識、将来の子育てに対する意識	「もっと看護技術を磨きたい」が高く、「看護師として仕事することに自身がある」が低く、職業的アイデンティティとアイデンティティ(確立)で負の相関あり。	①実習体験の影響要因を縦断的に調査。②自己成長を認め、看護観が深まるよう教授活動。
18 田中 里美他 (2014)	職業的アイデンティティの現状把握	①専門学校(346名)(全日制3年課程1~3年生、定時制3年課程1~4年生) ②自記式質問紙調査法	全学年で高いのは「もっと看護の勉強がしたい」「もっと看護の技術を磨きたい」低いのは全日制は「看護の仕事に誇りをもっている」「看護師としての仕事をすることに自身がある」。	①複数校調査、縦断的調査。②学習意欲を継続する講義演習。実習の不安や焦りに寄り添う。
19 田中 里美他 (2014)	キャリア成熟度と職業的アイデンティティの確立度合の調査	①専門学校1~3年生(154名) 定時制3年課程1~4年生(192名) ②自記式質問紙調査法③坂柳「キャリア成熟尺度」	キャリア成熟(関心性、自律性、計画性)と職業的アイデンティティは、相関関係が認められた。	①縦断的調査、複数校の調査。職業的アイデンティティ促進の要因。

看護学生における職業的アイデンティティの文献レビュー

使用尺度：松下「職業的同一性地位テスト」			
20	松下由美子 他(1993)	看護職を志す青年の職業的同一性形成が、いかなる要因によって規定されるのかを明らかにする	①大学、短大、専門学校(定時制を含む)16校(2659名)②自記式質問紙調査法③父母の職業、介護および身近な死の体験、看護学校入学決定時期と影響者、入学動機、看護職への構え、学校生活に対する評価
21	安藤 祥子他 (1995)	自我同一性地位の因子構造を、学生の属性群別に比較して職業的同一形成の経過を調べる	①短大生1~3年生(235名)②自記式質問紙調査法③入学時の希望職種、受験時の両親の反応、祖父母との同居、家族が病気をした時の看護の経験、家族や身近な人の死亡の経験
22	川守田 千秋 他(2004)	共感性と職業的同一性の関係について、学年による変化を検討	①短大(2年課程)1~2年(241名)②自記式質問紙調査法③桜井「対人的反応指標」
23	川守田 千秋 他(2004)	職業的同一性と死生観の関連を明らかにする	①短大(2年課程)1年生(119名)、2年生(122名)②自記式質問紙調査法③丹下「死に対する態度尺度」
24	上山 和子 (2009)	どのように職業的アイデンティティを確立するのかを明らかにする	①短大1~3年生女子(176名)②自記式質問紙調査法(各学年の実習前後に調査)③修学状況、進路状況
25	重本 津多子 他(2013)	職業に対する意識と、大学進学に至った過程を把握し、看護イメージと職業的同一性の関係を明らかにする	①大学(74名)②自記式質問紙調査法③工藤「看護イメージ」、進路を決めた時期、志望理由、看護系学校の情報の入手先
26	三津橋 佳子 他(2016)	同一性達成状況を分類し、基本属性との関連を明らかにする	①高等学校1年生~5年生(391名)②自記式質問紙調査法③看護職決定時期、家族や親類に看護職、身近な死の経験、自分の病気や入院経験、家族の入院、祖父母との同居、受験校の希望順位、受験決定者、受験決定時期
使用尺度：中西「自我同一性地位テスト」			
27	新井 明美他 (1990)	学年進行と自我同一性職業とストレス対処行動と自尊感情の関連と変化を明らかにする	①専門学校1~3年生(195名)②自記式質問紙調査法③ラザルス「Copingスタイル」、遠藤「自尊感情」
28	土屋 八千代 (2005)	職業同一性地位とストレス対処行動の経年的変化を明らかにする	①短大2校女子(118名)②自記式質問紙調査法、入学時から卒業まで4回の調査③大学生生活に関わる出来事(学習関係、臨地実習関係、大学生生活関係、人間関係)、進路(卒業直前時)
使用尺度：岩井「職業的アイデンティティ尺度」			
29	江口 瞳他 (2011)	入学初期の大学生の看護師イメージの構造、看護職に対する職業意識と関連性の考察	①大学1年生(100名)と2年生(39名)②自記式質問紙調査法③江口「看護師イメージ」
非構成的面接法			
30	松下 由美子 他(1993)	職業的同一性形成の様相と影響要因を把握	①短大1~3年生(13名)②半構成的面接法③園田「職業的同一性地位面接」
31	山内 栄子他 (2009)	大学生の学生生活における職業的アイデンティティ形成過程を明らかにする	①大学(10名)②非構成的面接法(3年後期、4年夏休み、卒業直前)③幼児期から大学入学まで、学生生活のなかで抱いた看護や看護職に対する気持ち

また、青年期のアイデンティティとの関連では、正の相関があり⁷⁾、学年別では2年生では負の相関²⁰⁾が、最終学年では正の相関¹⁹⁾が示されていた。行動規範との関連では、下位尺度の「実習態度の向上」、「医療者としての人格形成」と職業的アイデンティティには正の相関があった¹³⁾。患者への援助規範意識が職業的アイデンティティに及ぼす影響は、1年生では、自己犠牲的で愛他的な行動を支持する傾向がある学生ほど、職業的アイデンティティが確立していた³⁵⁾。

2) 志望動機との関連

職業的アイデンティティを高める志望動機として、藤井

「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した文献では、「やりがいのある仕事」とは正の関連があり、「特に理由はない」とは負の関連があった¹²⁾。「看護大学第一志望である」学生は、そうではない学生と比べ職業的アイデンティティが高かった¹⁰⁾。一方、志望動機と職業的アイデンティティの直接の関連は示されなかったが、志望動機が高いと実習達成感が高められ、職業的アイデンティティにつながることの報告もあった³⁶⁾。

波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した文献では、「看護師に対する理想的な想い」¹⁸⁾から正の影響があった。

松下「職業的同一性尺度」を使用した文献では、志望動機の決定時期との関連では、「同一性達成」「早期完了」で進路決定が早く、「早期完了」は、「小さいころのあこがれ」の影響があった³⁷⁾。「同一性拡散」は高校3年で決定した³⁷⁾や入学決定が遅い学生²⁶⁾で多いことが示されていた。

3) 生活歴との関連

職業的アイデンティティに影響する生活歴の関連では、家族や身内の病気や看護経験に着目した文献があった。職業的アイデンティティを高める要因としては、藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、「家族の看護・介護経験」¹²⁾があった。波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、職業的アイデンティティと「身内の入院」¹⁸⁾には正の関連があった。

松下「職業的同一性尺度」を使用した文献では、介護経験では、身近に要介護者がいるか否かよりも、どの程度積極的に介護に関わったかが「同一性達成」を規定していることが指摘されていた²⁶⁾。家族または身近な人の死の経験では、経験している学生は、「同一性達成」が有意に高く、看護職への傾倒を強めていたことが示されていた^{26,27)}。祖父母との同居は、同居している学生は、「同一性達成」が有意に高くなることが示されていた²⁷⁾。

4) 学生生活との関連

学生生活との関連について、波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、学生生活興味、学習興味は職業的アイデンティティに影響を与えていた¹⁸⁾。

藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、在学中に看護師を断念しようとした経験がある学生は、職業的アイデンティティが低かった³⁸⁾。また、身体的健康状態や精神的健康状態が良いと感じる学生程、職業的アイデンティティ得点が高くなることが示されていた³³⁾。看護職モデルの有無では、看護職モデルありの学生は職業的アイデンティティ得点が高かった^{8,12,33)}。

松下「職業的同一性尺度」を使用した文献では、「同一性拡散」の影響要因として、「看護学生としての誇りが欠けること」、「興味や適性がない」、「戴帽式」、「授業」が示されていた²⁶⁾。

5. 看護教育との関連 (表2)

1) 臨地実習との関連

臨地実習と職業的アイデンティティの関連を明らかにした文献は7件あった。藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、実習前後の職業的アイデンティティ得点の比較では、最終学年の学生で、職業的アイデンティティの下位尺度「看護職として必要とされることへの自負」が実習後に有意に高得点を示したことが報告されていた⁹⁾。一方、基礎看護学領域に関する臨地実習では、実習後に職業的アイデンティティが低下し、特

に、下位尺度「社会貢献への志向」は有意に低下した^{11,39)}。

波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、基礎看護学領域に関する臨地実習後で職業的アイデンティティが低下した⁴⁰⁾。また、臨地実習が職業的アイデンティティに与える影響として、「実習を通しての自己成長」や「患者との信頼関係の構築」⁴¹⁾、「自己の内面の成長の自覚」、「看護師になることの自信喪失」²³⁾があったと報告されていた。

2) 講義・演習との関連

講義・演習と職業的アイデンティティに関する論文は7件あった。藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、実習事前指導後に職業的アイデンティティの得点が高くなり、なかでも下位尺度「医療職の選択と成長の自信」が高まっていたことが報告されていた^{42,44)}。また、実習事前指導との関連では、実習事前指導は実習からの学びに影響を与え、実習からの学びが高いほど、実習後の職業的アイデンティティに影響を与えることが示されていた⁴⁵⁾。エキスパート・モデルによる専門職として現場に立つことの意味の自覚や患者の状態に応じた看護過程の実践などの講義と看護技術演習では、授業後に職業的アイデンティティ得点が高まったことが報告されていた⁴⁶⁾。

波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、救急救命処置技術演習での演習参加者と未参加者の職業的アイデンティティ得点を比較した結果、「もっと看護の勉強がしたい」、「もう一度職業を選ぶとしたらまた看護の仕事を選ぶ」の項目で、演習参加者の方が非参加者に比べて有意に向上していたと報告していた⁴⁷⁾。

6. 文献に示されていた職業的アイデンティティに関する今後の課題 (表1, 2)

今後の課題としては、研究方法の課題と教育支援に向けた課題が示されていた。

研究方法の課題としては、多くの文献では研究対象者が1つの養成機関に限定されていることから、対象者を増やすこと^{16,23,42,43,46,47)}、複数校で調査を実施すること^{21,28,31,34,45)}、さらに、看護学生の職業的アイデンティティの経年的変化を調べるための調査の継続性^{8,11,12,17,20,21,23,24,26,28,29,33-36,38)}について示されていた。また、使用尺度の検討や開発の必要性^{10,30,41,47)}、職業的アイデンティティの関連要因を明らかにすること^{9,18,21,25,36,38)}が示されていた。

教育的支援として、自己効力感や自尊感情を高める援助^{8,25,33,38)}、学生が職業的アイデンティティに揺らぎが生じている場合は学生の不安や気持ちに寄り添う^{18,34)}などの精神的な教育支援について示されていた。また、学生の職業的アイデンティティの特徴や経年的変化を踏まえ、個性に合わせた面接¹⁵⁾、自己評価^{16,19)}、臨地実習等での振り返り

の機会を設けること^{13,23)}が示されていた。

教育方法としては、看護の魅力や学生の学習意欲が継続されるような実習指導や講義内容の見直し^{32,34,36,40,42,44,45,47)},

職業モデルを意識した教育の必要性^{8,18)},実習達成感を高める援助^{38,41)}が求められることが示されていた。

表2 看護学生の職業的アイデンティティと教育との関連に関する文献

【著者】	【目的】	【研究方法】①対象②方法③質問項目	【結果】	【課題】①研究方法②教育
【臨床実習との関連】 使用尺度：藤井「医療系学生用職業的アイデンティティ尺度」				
1 柴田 和恵他 (2007)	実習前後の学生の援助規範意識と職業的アイデンティティの特徴、関連性の検討	①短大3年生(76名) ②自記式質問紙調査法(実習前後) ③箱井「援助規範意識尺度」	実習前後で「社会貢献の志向」は高く、「看護職として必要とされることへの自負」は低く実習後に高くなった。	①実習での体験的学びの違いによる影響等を明らかにする。
2 古宇田 英美他 (2009)	早期体験実習が職業的アイデンティティ形成に与える影響	①大学1,2年生(106名) ②自記式質問紙調査法(実習前後) ③卒業後の進路	「看護職として必要とされることへの自負」で肯定的に変化。「社会貢献への志向」で否定的変化があった。	
3 遠藤 恭子他 (2011)	基礎看護学実習IIが学生の思いやり行動と職業的アイデンティティに及ぼす影響	①大学2年生(62名) ②自記式質問紙調査(実習前後) ③尾原「思いやり行動評価尺度」、看護職への迷い、希望職種、志望資格、大学院進学希望	職業的アイデンティティは実習後に低下。実習前後で高いのは「社会貢献の志向」で実習後に低下。低いのは、実習前後「看護職として必要とされることへの自負」、実習後「看護職の選択と成長への自信」。	①研究の継続性。 ②学生が思いやり行動をとることが出来るような関わり。
【臨床実習との関連】 使用尺度：波多野「職業的アイデンティティ尺度」				
4 信里 ユリエ他 (2006)	基礎看護学実習終了後の基本的信頼とアイデンティティ形成	①専門学校2年生(29名) ②自記式質問紙調査法(実習前後) ③下山「アイデンティティ尺度」、谷「基本的信頼感尺度」	基本的信頼感尺度、アイデンティティ尺度、看護職アイデンティティ尺度は、実習後いずれも低下した。	①実習指導方法の見直し。
5 上田 伊佐子他 (2010)	5年一貫教育による学生の「職業的アイデンティティ」の経年的変化と臨床実習が与える影響を明らかにする	①高等学校2～5年生(144名) ②自記式質問紙調査法、実習前後に調査③山本「自尊感情尺度」、臨床実習の自己変化の認知	職業的アイデンティティは学年進行に伴い低下し、卒業年次に再び上昇。初めての臨床実習後に「看護師としての自己向上」が上昇。4年生の実習後影響要因は自己変化認知の下位因子「自己の内面の成長の自覚」「看護師になることへの自信喪失」。	①対象者を増やす。縦断的調査。 ②臨床実習後のリフレクションの必要性。
6 辻田 大介他 (2011)	実習達成感と職業的アイデンティティの関連を明らかにする	①大学2校3,4年生(245名) ②自記式質問紙調査法③原田「実習達成感」	職業的アイデンティティは、学年による有意差なし。「実習を通しての自己成長」は職業的アイデンティティと強い関連があり、「患者との信頼関係の構築」には弱い関連があった。	①介入研究。実習達成感の尺度開発。②実習達成感を高める援助。
【臨床実習との関連】 レポート分析				
7 大池 美也子他 (2002)	保育園実習における保育士や小児の相互作用から職業的アイデンティティ形成を明らかにする	①短大生1年生(75名) ②レポート分析③実習後のレポート「保育園実習の感想」	実習前は小児や保育士に対して、漠然としたイメージ。実習で小児の個性、成長・発達段階、保育士の行動を観察するという媒介を経て、看護との共通性や相違性という認識に至る。	
【講義・演習との関連】 使用尺度：藤井「医療系学生用職業的アイデンティティ尺度」				
8 落合 幸子他 (2006)	エキスパートによる授業実施後、学生が授業者をどのような医療者と評価し、自己効力感、評価概念、職業的アイデンティティに及ぼす影響	①専門学校3年次(51名) ②自記式質問紙調査法(授業前後) ③坂野「自己効力感尺度」、山本「評価概念尺度」、藤井「医療者モデル特性尺度」(実習後)、モデルの評価(講義後)	エキスパート・モデルによる授業後は、職業的アイデンティティと自己効力感が高まり、評価概念が低下。授業前に「社会貢献への志向」が強い学生ほど授業者のモデル特性を高く評価した。	①他の授業者、学生を対象とした調査。
9 マイマイティ・バリア他 (2006)	職業的アイデンティティを高めることに配慮した実習直前指導を実施し、その成果を授業メッセージ尺度により評価	①短大3年生(82名) ②自記式質問紙調査法、実習直前指導に講義・演習を実施③(指導前後)、落合「授業メッセージ尺度」(指導後)	指導以前の職業的アイデンティティが指導メッセージに影響し「看護職選択と成長への自信」が高め、「社会貢献志向」が高いと実習直前指導のメッセージを強く受け取る。「看護者育成への熱意」のメッセージは「看護職選択への自信」「社会貢献志向」を高める。	①対象数を増やす。 ②実習直前指導のあり方や内容の検討。
10 マイマイティ・バリア他 (2007)	職業的アイデンティティ形成促進を目的とした実習直前指導が職業的アイデンティティ、自己効力感、評価概念に与える影響	①専門学校3年生(67名) ②自記式質問紙調査法(指導前後)、実習直前指導③坂野「一般性自己効力感尺度」、山本「評価概念尺度」、落合「授業メッセージ尺度」	職業的アイデンティティは指導後に有意に上昇。指導の効果に関わる要因は、指導前の職業的アイデンティティ、自己効力感、評価概念が授業メッセージの受け止め方に影響した。	①対象者数を増やす。
11 マイマイティ・バリア他 (2009)	実習前に職業的アイデンティティを高める実習直前指導を実施し、職業的アイデンティティと実習での学びに及ぼす効果	①専門学校3年生(84名) ②自記式質問紙調査法(指導前後、実習後)、指導あり(40名)と指導なし(29名)に無作為に分け、指導ありに実習直前指導を実施。③マイマイティ「看護学実習での学びの尺度」	実習直前指導が職業的アイデンティティに及ぼす効果は、職業的アイデンティティ下位因子「看護職選択への自信」は指導あり群が高く、指導前後では、「看護職選択への自信」と「看護職として必要とされることへの自負」は指導後のほうが高かった。	①他の実習での効果。 ②指導方法の検討、実習中、実習後のサポート方法、就職後の継続教育。
12 上田 雪子他 (2014)	基礎看護学実習における実習事前指導が実習後の職業的アイデンティティに与える影響を明らかにする	①高等学校4年生(33名) ②自記式質問紙調査法、実習事前指導後と基礎看護学実習後③マイマイティ「授業メッセージ尺度」、藤井「実習からの学びの尺度」	実習事前指導は、実習からの学びに影響を与える。実習からの学びが高いほど、実習後の職業的アイデンティティに影響を与える。	①対象校を増やす。②実習事前指導の内容、指導方法、基礎看護学実習指導方法の改善。
【講義・演習との関連】 使用尺度：波多野「職業的アイデンティティ尺度」				
13 松田 明子他 (2014)	職業的アイデンティティ形成を目的とした救急救命処置技術を実施し、その効果と職業的アイデンティティの変化を評価	①大学3年生の演習参加群(7名)、非参加群(20名) ②自記式質問紙調査法(演習前後)、救急救命蘇生法と蘇生法の知識、技術確認③山本「自尊感情尺度」、ボランティア有無、実習での技術面の不安、蘇生法の手順及び知識	職業的アイデンティティは、演習参加者と非参加者群で有意差なし。演習前後の職業的アイデンティティの変化は、「もう一度職業を選ぶとしたら看護の仕事を選ぶ」「看護の勉強がしたい」で参加者の方が有意に向上。	①対象者が少ない。 ②救急救命処置技術確認や看護師の救命時の役割についての演習を、卒業時まで段階的に組み込んでいく。
【講義・演習との関連】 使用尺度：落合「看護師用職業的アイデンティティ尺度」				
14 片岡 祥 (2014)	職業的アイデンティティを高める取り組みとして、ロールプレイを講義の中に取り入れて効果が得られるかを検討	①専門学校1年生(41名) ②自記式質問紙調査法(講義前、ロールプレイ前後、ロールプレイ2週間後、5週間後) 学生自身が看護場面を想定したロールプレイを立案し実施	職業的アイデンティティの下位尺度「看護観の確立」得点は、発表2週間後、発表5週間後で、発表前と比べて有意に高かった。	①尺度の検討。

VI. 考察

1. 看護学生の職業的アイデンティティの現状と教育支援

看護学生の職業的アイデンティティの現状として、学年進行により職業的アイデンティティに差がみられたという報告が多かった。藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」、波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、1年生の職業的アイデンティティ得点が最も高く、学年進行とともに低下し、最終学年で再び上昇するという傾向があり、この結果は、古市³⁾、原⁴⁾の文献レビューと同様の結果であった。また、松下「職業的同一性尺度」を使用した文献では、1年生では「同一性達成」が高く、高学年では「同一性拡散」が上昇していた。このような学年進行による差がみられた要因として臨地実習との関連が考えられる。特に、臨地実習と職業的アイデンティティの関連を明らかにした論文では、基礎看護学領域に関する臨地実習後に職業的アイデンティティが低下していた。非構成面接法による調査からも看護の現実を知ること、不安や不適応感を持つ³¹⁾ことが報告されていたことから、看護学生は、初めての臨地実習を通して、看護の現実を知り、看護職の適性について葛藤が生じ、職業的アイデンティティが低下すると考えられる。一方、臨地実習が職業的アイデンティティに与える影響要因として「実習を通しての自己成長」や「患者との信頼関係の構築」⁴¹⁾があったとの報告があった。また、職業的アイデンティティの形成過程を明らかにしたインタビュー調査から【看護職は自分自身の仕事という感覚を得ていく】³²⁾と示されていたことから、臨地実習を通して、自己成長や看護職が自分の仕事であるという感覚を得ることにより、最終学年で再び職業的アイデンティティが上昇するのではないかと考えられる。

次に、藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」の尺度を用いた文献では、下位尺度の得点は「社会への貢献の志向」が最も高く、「医療現場で必要とされることへの自負」が最も低かった。また、波多野「職業的アイデンティティ尺度」を用いた文献では、最も得点が高い下位項目は、「もっと看護の技術を磨きたい」であり、「看護師として仕事することに自信がある」が最も低かった。これは、校種や学年による差はみられておらず、看護学生の職業的アイデンティティには、医療現場や社会に貢献したいという志向性は高いが、その一方で、看護職として自分が患者や医療現場に必要とされている事への自負心や、看護職として働くことへの自信は低い傾向にある。不安を抱えたまま看護師として就職することは、早期離職につながることも予想される。そこで、卒業時には看護職としての自己成長を実感し、働くことへの不安を軽減させるための教育的支援が必要である。

文献検討の結果、職業的アイデンティティを高める教育

的支援として、実習事前指導後やエキスパート・モデルによる講義後では職業的アイデンティティが高くなることが報告されていた。今後は、臨地実習でのリアリティショックを軽減させるための実習事前指導の実施や、特に、初めての臨地実習では職業的アイデンティティが低下する傾向にあるという看護学生の現状を踏まえた指導が求められる。また、職業モデルがいる学生ほど職業的アイデンティティが高くなるという報告があったが、職業モデルが誰であるかまでは示された論文は見当たらなかった。今後は、この点を明らかにし、看護教員や臨床指導者が職業モデルとなるような関わりが必要である。

次に、看護学生の職業的アイデンティティに影響を及ぼす要因として、心理的要因や志望動機、生活歴、学生生活などの個人的特性があった。なかでも、志望動機や生活歴との関連では、藤井「医療系大学生用職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、「やりがいのある仕事」や「家族の看護・介護経験」は職業的アイデンティティを高め、逆に「特に理由はない」とは負の要因であった¹²⁾。また、波多野「職業的アイデンティティ尺度」を使用した論文では、「看護師に対する理想的な想い」、「身内の入院」とは正の影響があった¹⁸⁾。また、松下「職業的同一性尺度」を使用した論文では、介護に関わった経験や、家族や身近な人の死を経験している学生は「同一性達成」が高く、逆に進路決定が遅い学生は「同一性拡散」が高かった²⁶⁾。このことから、入学以前からの看護職に対してのやりがいや理想的な想い、看護や介護の経験という具体的なイメージは看護学生の職業的アイデンティティを高める要因となる一方、志望動機に理由がない場合は、職業的アイデンティティが低下する要因となっていた。波多野¹⁴⁾は、学生の個別性に合わせた相談・カウンセリングによる学生への対応や学習に興味を持って意欲的に取り組めるカリキュラムや指導方法をとることが教師の課題であると指摘している。職業的アイデンティティは、志望動機や心理的要因といった個人的特性の影響を受けること、特に、看護職になるという志望動機がないまま入学した学生は職業的アイデンティティが低いことから、個別性に合わせた相談の実施や看護に興味を持てるような教育の必要性が示唆される。

2. 職業的アイデンティティ形成における今後の研究課題

看護学生の職業的アイデンティティに関する論文は、2000年以降増加し、また、大学の増加に伴い、大学生を対象とした論文が増加していた。職業的アイデンティティに関する論文は増加しているが、研究方法の課題として、対象者の多くが1つの養成機関に限られていることから複数校での調査や経年的な変化を明らかにするための縦断的研究が求められるとあり、今後は、より一般化に向けた調査の必要性が課題である。原⁴⁾の文献レビューでは、職業的アイデンティティの学年進行による特徴について、大学生

を対象とした見解が求められるとあった。また、大学生は他の校種に比べると、「同一性達成」が低い傾向にあることが示されており、大学生の職業的アイデンティティの特徴については今後も引き続き調査していく必要がある。

また、職業的アイデンティティを考慮した教育の課題を示した複数の論文では、学生相談と学習意欲を高める教育の必要性が共通してみられた。なかでも、大学全入時代となり、大学生の学習意欲の低下が問題となっている。そこで、職業的アイデンティティの確立においては、学習意欲についても考慮した教育が必要であると考えられる。しかし、職業的アイデンティティと学習意欲の関連を明らかにした研究は少なく、今後、この点について明らかにしていく必要があると考えられる。

VII. 結語

1. 看護学生の職業的アイデンティティの現状として、1年生が最も高く、学年進行と共に低下し、卒業時に再び上昇する傾向があり、社会貢献などの志向性は高いが、看護職になることの自信が低い傾向にある。
2. 職業的アイデンティティの関連要因として、心理的要因や生活歴など個人的特性があり、特に志望動機では、看護や介護経験がある学生ほど職業的アイデンティティが高くなることが示されていた。
3. 職業的アイデンティティは、臨地実習や個人的特性から影響を受けることから、実習事前指導や看護に興味を持てるような教育の必要性、個別相談やリフレクションなどの教育的支援が示唆される。

利益相反 開示すべき利益相反はありません。

本研究は、第4回保健科学研究発表会で発表した内容を加筆・修正したものである。

引用文献

- 1) Erikson. アイデンティティとライフサイクル,誠信書房,2011.
- 2) 文部科学省「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会 最終報告(2011)」
- 3) 古市清美他.看護学生の職業アイデンティティに関する文献レビュー.ヘルスサイエンス研究 17(1):47-50,2013.
- 4) 原頼子他.看護における職業的アイデンティティに関する研究の動向と課題.岐阜看護研究会誌 4:49-57,2012.
- 5) グレグ美鈴.看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築.看護研究, 35(3): 196-204, 2002.
- 6) 藤井恭子他.医療系学生における職業的アイデンティティの分析.茨城県立医療大学紀要 7:131-142,2002.
- 7) 関口恵子.3年課程の看護学生におけるアイデンティティの形成 職業的アイデンティティとの関連に注目して.埼玉医科大学短期大学紀要 23:31-43,2012.
- 8) 藤本裕二他.看護大学生低学年の職業的アイデンティティの推移と特性的自己効力感及び職業モデルとの関連.日本医学看護学教育学会誌,25(1):38-43,2016.
- 9) 柴田和恵他.看護学生の援助規範意識と職業的アイデンティティとの関連 臨地実習前後の比較. 天使大学紀要, 7:85-92,2007.
- 10) 島田久代.看護学部生の入学時の援助規範意識と職業的アイデンティティとの関連. 中京学院大学看護学部紀要 1(1):23-34,2011.
- 11) 遠藤恭子他.基礎看護学実習 II が看護学生の思いやり行動と看護職アイデンティティに及ぼす影響. 獨協医科大学看護学部紀要 4:19-31,2011.
- 12) Matsuura Emi 他.日本の看護大学1年生の職業アイデンティティに関連する個人および環境因子の研究. 日本医学看護学教育学会誌 23: 12-18,2014.
- 13) 小坂美映子他.3年次看護学生の行動規範と職業的アイデンティティの関連.日本看護学会論文集 看護教育 45:75-78,2015.
- 14) 波多野梗子他.看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化. 日本看護研究学会雑誌 16(4):21-28,1993.
- 15) 小藪 智子.看護学生の職業的アイデンティティ形成に関する研究(第二報) 経年的変化から考える教育的支援. 川崎医療短期大学紀要 27:25-29,2007.
- 16) 合田友美他.看護学生の自尊感情と職業的アイデンティティとの関連から考える教育的支援.川崎医療短期大学紀要,31:75-81,2011.
- 17) 河村彰美他.看護学生における看護婦のアイデンティティ形成と志望理由・学習進度との関係. 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要 10(1):91-99,2000.
- 18) 野田貴代他.看護短期大学生の職業的アイデンティティと関連要因.愛知きわみ看護短期大学紀要 1:15-24,2005.
- 19) 上山和子.看護基礎教育課程修了時の職業的アイデンティティ形成に関する研究 専門職としての意識. インターナショナル Nursing Care Research8(1):55-6,2009.
- 20) 上山和子.看護学生の職業的アイデンティティ形成要因と生涯発達としての子育て観の変化(第2報) 2年次学生の調査 インターナショナル Nursing Care Research11(4):163-172,2012.
- 21) 田中里美他.看護専門学校生の職業的アイデンティティに関する調査報告. 看護・保健科学研究誌 15(1):101-107,2014.
- 22) 柴田和恵他.看護学生の援助規範意識と職業的アイデンティティ 1年生入学時と3年生の比較.日本看護学会論文集看護総合 39:78-80,2008.
- 23) 上田伊佐子他.5年一貫課程の看護学生の「職業的アイデンティティ」の経年的変化と臨地実習が与える影響.看護教育,51(8):702-707,2010.
- 24) 江口瞳他.入学初期の看護大学生が抱く看護師イメージの構造と職業的アイデンティティとの関連.山陽看護学研究会誌

- 1(1):21-30,2011.
- 25) 高畑正子他.看護大学生の特性的自己効力感が職業的アイデンティティに与える影響 学年間の比較. 中京学院大学看護学部紀要 5(1):27-39,2015.
- 26) 松下由美子他.看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討. 教育相談研究 31:29-45,1993.
- 27) 安藤詳子他.看護学生の自我同一性に関する研究 職業的同一性形成を規定する教育的要因. 日本看護研究学会雑誌 18(3):7-19,1995.
- 28) 新井明美他. 看護学生の自我同一性職業について ストレス対処行動と自尊感情の視点から. 日本看護学会集録 看護教育 21 :209-212,1990.
- 29) 土屋八千代.看護学生の職業同一性地位とストレス対処行動の経年的変化. 南九州看護研究誌 3(1):1-10,2005.
- 30) 三津橋佳子他.5年一貫看護師養成課程における生徒・学生の職業的アイデンティティ達成スタイルとその関連要因 埼玉大学紀要. 教育学部 65(1):131-143,2016.
- 31) 松下由美子他.看護学生の職業的同一性形成に関する研究 同一性地位面接による分析. 神奈川県立衛生短期大学紀要 26:15-22,1993.
- 32) 山内栄子他.現代の看護系大学生の学生生活における職業的アイデンティティの形成過程. 日本看護学教育学会誌 18(3):11-24,2009.
- 33) 生田奈美可他.看護大学生の職業的アイデンティティの形成に関する研究 入学後間もない時期の構造と特徴. 宇部フロンティア大学看護学ジャーナル 6(1):11-19,2013.
- 34) 田中里美他.新卒看護師の離職と看護基礎教育との関連 看護学生のキャリア成熟と職業的アイデンティティに着目して, インターナショナル Nursing Care Research13(4):95-104,2014.
- 35) 高橋ゆかり他.看護学生の援助規範意識と職業的アイデンティティの関連. 日本看護学会論文集 看護総合 39:81-83,2008.
- 36) 清水美恵他.看護学生の志望動機と実習達成感, 看護職の職業的アイデンティティとの関係. 人間看護学研究 13:1-7,2015.
- 37) 重本津多子他.看護学生の看護に対するイメージおよび入学動機と職業的同一形成との関連. 医学と生物学 157(1):61-69,2013.
- 38) 千葉朝子.看護学校在学中の看護師志望意志の変化と影響因子および職業的アイデンティティとの関連. 国立病院看護研究学会誌 9(1):2-12,2013.
- 39) 古宇田英美他.早期体験実習が看護学生の職業的アイデンティティ形成に及ぼす効果 お茶の水看護学雑誌 4(1):15-21,2009.
- 40) 信里ユリエ他.基礎看護学実習終了後における看護学生の基本的信頼とアイデンティティ形成に関する実態. 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌 2(1):144-147,2006.
- 41) 辻田大介他.看護教育研究 看護学生の実習達成感と職業的アイデンティティの関連. 看護教育 52(1):42-46,2011.
- 42) マイマイティ・パリダ他.臨床実習直前指導が看護学生の職業的アイデンティティに及ぼす影響. 茨城県立医療大学紀要 11:13-21,2006.
- 43) マイマイティ・パリダ他.看護学生の職業的アイデンティティ形成の促進を目的とした実習直前指導の効果. 医学教育, 38(5):329-333,2007.
- 44) マイマイティ・パリダ他.職業的アイデンティティを高める実習直前指導が看護学実習での学びに及ぼす効果. 茨城県立医療大学紀要 14:77-86,2009.
- 45) 上田雪子他.基礎看護学実習における実習事前指導が実習からの学びと職業的アイデンティティに与える影響 看護・保健科学研究誌 15(1):28-37,2014.
- 46) 落合幸子他.エキスパート・モデルが看護学生の職業的アイデンティティに及ぼす影響 自己効力感・評価懸念との関連からみた効果. 茨城県立医療大学紀要 11:71-78,2006.
- 47) 松田明子他.看護学生における職業アイデンティティの形成に関する研究 救命救急処置技術の演習の効果. 鳥取大学教育研究論集 4:51-60,2014.
- 48) 片岡祥.講義を用いた看護学生の職業的アイデンティティを高める取り組み 臨床場面を想定したロールプレイの効果の検討. 応用心理学研究 40(1):56-62,2014.

【Review】

A Literature Review on the Vocational Identity of Nursing Students

SONOKO TAKASE*¹ MIKA SATO*²
YOSHIKO NISHIZAWA*³

(Received February 28, 2018 ; Accepted April 28, 2018)

Abstract: This study aimed to elucidate characteristics of the vocational identity of nursing students, related factors, educational support, and research subjects. Search keywords like “nursing,” “students,” “vocation,” and “identity” in Ichushi-Web and CiNii databases led to the extraction of 120 articles. After eliminating studies that did not elucidate the vocational identity of nursing students and duplicate articles, we reviewed 45 studies. The results revealed that the vocational identity scores of nursing students declined with the progress of the academic year, and although the orientation toward nursing remained high, their confidence and pride in nursing was low. In addition, factors affecting the vocational identity of nursing students were associated with life history such as psychological factors. This study suggested the provision of educational support by teachers, such as student consultation and review of learning, to motivate and enhance vocational identity in nursing students. Nevertheless, further studies are required to elucidate the relationship between the vocational identity of nursing students and their motivation to learn.

Keywords: Nursing students, Vocational identity, Literature review